

事業実施報告書

2020年4月8日

市川市長

提案者名 緑のみずがき隊代表 谷藤 博喜
所在地 市川市柏井町 4-329-5
電話 047 (337) 1650
提案者名 市川緑の市民フォーラム事務局長 佐野 郷美
所在地 市川市曾谷 7-24-3
電話 047(373) 3219
提案者名 真間川の桜並木を守る市民の会事務局 鳥居雪子
所在地 市川市八幡 6-9-6
電話 047(333) 0852

2019年10月3日付け 市川第 20190906-0204号をもって決定のあった市川市協働事業提案に係る事業実績報告について、下記により提出します。

記

1. 協働事業の名称 大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかる講演会とワークショップ

2. 協働事業の概要

西廣淳先生（国立環境研究所、保全生態学）を講師に、広く一般に向けて講演会を開催する。生物多様性を高め、人と生き物の共生を目指し、大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかるワークショップを広く市民に呼び掛け、市民と市の協働で開催する。

3. 添付書類

- (1) 事業報告書（様式第8号）
- (2) その他市長が必要と認める書類



20200408-0245

市川市協働事業報告書

<p>事業の名称</p>	<p>大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかる講演会とワークショップ</p>
<p>事業の実施内容</p>	<p>*講演会 2020年1月19日(日)午後1時半から4時半 市川市立北方小学校にて、西廣淳先生(国立環境研究所、保全生態学)を講師に「湿地の保全と地域の魅力:国内外の事例から」をテーマに広く一般に向けて講演会を開催。他の調節池の事例などを参考に、調節池の重層的な役割やその価値、保全と活用をはかるために何が必要とされるかを学んだ。</p> <p>*ワークショップ 3月20日(金)大柏川第1調節池緑地でのワークショップでは、参加者が現地を歩き、その後意見交換をすることを計画し、その準備に入っていましたが、新型コロナウイルスの肺炎感染拡大の防止のため市と協議のうえ中止とした。</p>
<p>事業実施の効果並びに市と協働したことによる効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のように3月20日予定の現地でのワークショップは、市と協議して中止とした。そのため、事業実施の全体の効果については今後を待つ必要がある ・会場の設定、設営、小学校との連絡調整、地元自治会や地域の方々へのお知らせ等々、市との協働によりスムーズに進めることが出来た。
<p>その他の成果や今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月19日の講演会については当初の予想より、多くの方々に参加いただけ関心の高さがうかがえた。 ・参加者は講師の話から、まちづくりにおける調節池の価値や地球温暖化時代の湿地の役割の重要性など再認識できたと思われる。 ・また、今後協議会の設立に向けての示唆もあり、次回取り組みについて、参加者の関心をどう見極めて、今後へ繋げて行くのが課題と感じた。

事業実施期間	2019年10月3日から2020年3月31日
事業実施場所	市川市立北方小学校図書館
主な対象者	地域住民及び緑地の利用者、千葉県、市川市の職員、周辺学校関係者、市民団体、この緑地に関心のある方

市川市協働事業提案制度

ふりかえりチェック表

このふりかえりチェック表は、協働事業をより良いものとするため、事業実施中や事業終了後に提出していただき、お互いに「協働」の満足度を高めることを目的としています。

また、実施体制や課題解決の状況等について、お互いが意見を交換することで、さらに協働効果の高い事業として、今後推進できるように取り組んでまいります。

事業名：大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかる講演会とワークショップ

提案者名：緑のみずがき隊、市川緑の市民フォーラム、

真間川の桜並木を守る市民の会

事業概要：西廣淳先生（国立環境研究所、保全生態学）を講師に、広く一般に向けて講演会を開催する。生物多様性を高め、人と生き物の共生を目指し、大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかるワークショップを広く市民に呼び掛け、市民と市の協働で開催する。

※3月20日に開催を予定していた調節池でのワークショップは新型コロナウイルスの肺炎の感染拡大防止のため中止した。

提案者と市の役割分担

提案者

- ・ 講演会とワークショップの企画・運営
- ・ 講師、アドバイザーの選定と依頼
- ・ 1回ごとのまとめ、問題や課題の整理

市

- ・ 市職員の出席と参加
- ・ 千葉県との連絡調整及び、参加の要請
- ・ この事業の企画・立案にあたっての情報提供
- ・ 講演会、ワークショップの場所の提供
- ・ 必要な機材の提供
- ・ 広報などへの事業の周知のための掲載
- ・ 1回ごとのまとめ、問題や課題の整理

事業が終了したので、実施体制と課題解決の状況について、下記のとおり双方で評価します。

設問ごとに、〔優、良、可、不可〕の4段階で、該当すると思う評価のところに○を付けます。

また、その状況について説明が必要と思われる場合は、備考欄に記入します。

1. 実施体制

項目	内容	評価	備考
(1) 事業内容について	協働事業として、当初決定したとおり、課題を解決するための事業内容となっているか。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	<p>予定した2回の取り組みのうち、1回の講演会のみの実施となったので、事業全体の評価は出来ないため、今回の評価は講演に限ったものとする。</p> <p>課題解決という点においては、参加者の関心の高さも感じられたので、その契機となるものと判断し「良」とした。</p> <p>以下の項目についても講演会のみ の評価とした。</p>
(2) 役割分担について	協働事業として、当初決定したとおり、課題を解決するための役割分担となっているか。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	
(3) 情報の共有について	課題を解決するための事業を実施するに際し、お互いの実施状況についての情報を共有できたか。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	

2. 課題解決の状況

項目	内容	評価	備考
(1) 課題の把握 住民ニーズ	協働事業をこのまま実施することにより、課題が解決され、住民ニーズは満たされるか。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	
(2) 協働の効果について	協働事業をこのまま実施することにより、お互いが単独で実施するよりも効果をあげることができるか。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	
(3) 協働の必要性について	協働事業をこのまま今と同様のパートナーで実施することが妥当か。また、修正等の必要はあるか。	優 ○良 可 不可	
(4) 市民参加について	協働事業をこのまま実施することにより、より多くの市民が参加できるか。また、そのようになるために、修正等は必要か。	優 ○良 可 不可	予想以上の参加者があったが、さらに地域の方々、高齢者から若い方、また子育て世代まで、もっと幅広く関心を持ってもらえるような工夫や呼びかけ方が必要と感じた。